

2016/10/15号

〒657-0064 神戸市灘区山田町3丁目1-1 神戸学生青年センター内

食品公害を追放し安全な食べ物を求める会

TEL & FAX : 078-822-0810 第2FAX : 078-842-2430

■URL : <http://www.motomerukai.com>

■Email : info.motomerukai@gmail.com

求める会ニューズ No. 927

食料環境セミナー報告

「水素水！本当に効果があるかな！」

9月28日（水）10：30～12：00

大阪大学大学院理学研究科教授

菊池誠さん

科学とはなにか？「・客観的（誰が見ても同じ）、・再現性（何度やっても同じ）。」

ニセ科学の例として、

・怪しい放射能対策・万能のEM菌・波動水からの伝言・マイナスイオン・水素水・血液型性格判断・ホメオパシーなどの民間療法 など。

ニセ科学とは言えないが危うい議論になりがちなもの

・脳科学・環境問題・薬、食品 など。

実例としていくつかあげられましたが、水の場合、水素を始めゲルマニウム、酸素、マイナスイオンなどいろいろ怪しげなものを含んだ水が売れているのは、「水道水ではなく不安」、「なんとなく満足できない」という気持ちに起因する。けれども日本の水道水は、世界に類を見ないほど安全で、怪しい水を売るために水道水に対して不安を煽っている面がある。では「水素水」の何を信じて飲んでいるのか？健康にいいという漠然とした期待ですが、市販の水素水はただの水です。

「マイナスイオン」については、イオンという言葉の科学っぽい雰囲気や、テレビなどで宣伝しているので効くのだろうと受け入れられていますが、身体や気分に与える影響は不明で、科学的研究はされているが、効果については検証されていない。に

もかかわらず、大手の電機メーカーがこぞって手を出したのが問題です。

最近では放射能にまで効果があるとされ、万能の効果がうたわれているEM菌や、現在医療への不信を背景に、ヨーロッパで生まれた民間療法の一つのホメオパシーなどは、効果を検証しないにも関わらず、いいものだからいい効果があると思いきり、客観的な判断を妨げてしまうことがある。それによって環境を良くするつもりがかえって悪化を招いたり、医師にかかるのが遅れて死亡した場合もあるのが問題です。

ニセ科学の見分け方としては、他人と共有できるものは客観的事実だが、個人の体験談を重視するのはニセ科学の特徴。

「膝に良いと言う物を摂取していますが、医者は効かないと言います。そういうのはどうでしょうか」という質問に対して、健康食品などは趣味の世界で、それに幾らお金を使えるかですね、というお答えでした。

遊びや趣味など日常生活は合理的でなくてよいが、社会の意志決定（法律を作るなど）は合理的に考えないと民主主義は成り立たず、衆愚政治になってしまう、と言われていたのが印象に残りました。

（松並 G 池田 真知子）

次回食料環境セミナー

「限界集落の再生の取り組みについて
～宍粟市一宮町千町～」

10月26日（水）10：30～12：00

NPO ひょうご農業クラブ 理事長

増田 大成さん

参加者：(市有研) 一色さん、大谷さん、橋本慶子さん (求める会) 大野、岡部

場所：丹波市ライフピア市島 13:00~15:40

今回は市島で自然農法をされている高橋秀顕、マミ（「あとリエ・まろん」さん）ご夫妻を市有研の方々に紹介するという事で最初の1時間は、お二人を交えての話し合いでした。自然農法、土の改良、販路など。同じ市島でも「若い世代との交流」がほとんど無いようですが、皆さん興味津々、和気あいあい(?)の会話。これからもどんどん繋がりが深まり、理解しあえそうな予感(?)です。(ご近所は仲良し、助け合いです!!!)。

10月の全体会の午後(10/19)高橋ご夫妻がセンターで「土の話」をされます。皆さま、どうぞ参加して下さい。たのしく農業、生活をされている今の若い方の生き方を聞きましょう!

その後の話し合いは、求める会の新活動「おいしいね!が育てる元気」第2回(10/17)「作って食べよう!」の野菜材料を用意していただくこと。収穫感謝祭(11/26)の食堂の野菜と試食、販売コーナーの参加依頼で、どちらもOKを頂きました。また、今年は夏野菜の倍量出荷をさせてもらったので助かったとのこと。9月の端境期になってから出来る野菜(空芯菜等)、そのようなタネがあるか探してみるなどでした。大野代表が午前中に協栄運輸を訪問したこと。配送をあしの会に委託することになったこと。その理由、経過、予定時間、影響されること等を市有研に説明し、協力をお願いしました。

(センターG 岡部 真理子)

市島町有機農業研究会と若夫婦の Lovely な話し合い

9月24日、「ライフピア」で市島町有機農業研究会との話し合いがあり、高橋秀顕さんとマミさん（「あとリエ・まろん」主宰）夫妻に来ていただきました。彼らとの出会いは、昨秋に夙川の天然酵母のパン屋さんの店先で開かれた「丹波太郎」の餅つきとマルシェのイベントでした。当日、若い生産者約十人と交流しましたが、とりわけ二人の「自然農法の生産者と消費者をつなぎたい」という話が心に残りました。

その後の交流は無かったのですが、今年度の活動企画の一つである、若い世代の動きを知るための催しで、10月の全体会の終了後、自然農について二人に話を聴きます。市有研との定例会に顔を出してもらった理由は、一つにはその打合せのためでした。もう一つは、偶然にも一色さんの畑のすぐ前が彼らの畑だったので、「古くからの地の人」と「外から入ってきた人」との交流の機会を提供したいと思ったのです。1年から2年で多くの新規就農の人が志を果たさず消えていくなかで、若い世代を応援していく空気がこの地域でさらに活発になり、農業従事者が少しでも増えることを願います。

マミさんの苦を苦しめない自然を楽しむ仕事ぶりはおおらかで、話は1時間半にも及びました。一色さんは「協力するで〜」と気持ちよく応じてくださり、橋本さんも研修生の制度があることをアドバイスされました。話がどこまでも長引くので気が気でなかった岡部さんは、最後に市有研とイベント材料の用意について無事に打合せを済ませました。予定時間も過ぎ、市有研との話し合いにしては異例でかつ Lovely な1日を終え、爽秋の舞鶴道の帰路を二人で急ぎました。

(*) 10月19日(水) 午後1時から3時まで。このニュースを読んで間に合う方はぜひ参加を。午後のみも可です。高橋さんが大麦、小麦粉、はったい粉を持参し販売します。(松浜G 大野貞枝)



求める会と提携している市島町有機農業研究会（市有研）の野菜がどのように作られているのか、消費者の私たちはあまり学習してこなかったのではないのでしょうか。秋の地域集会では、どんな農法があり、市島での作り方も交えて、土の勉強をしてみたいと思います。

野菜は浸透圧によって土中の水と一緒に栄養分を吸収し、それを光合成で人間や動物に吸収されやすい形に変えて、自らの中に貯蔵しています。人間はそれをいただいて栄養としているわけです。

近代化学農法は、化学肥料を畑にまき、農薬を散布して作ります。すると土の中の虫や微生物は死に絶え、化学物質で水ぶくれして、味も香りもない野菜ができます。また、農薬は使わず有機物（堆肥）と化学肥料で完全栄養の土を作り、育てる方法もあります。

市有研が実践しているような、農薬も化学肥料も使わず、有機物だけで作る方法もあります。例えば、橋本さんは、草とコーヒークス、烏龍茶カスの発酵肥料と、油カス、米ヌカ、鶏糞、EM菌などを堆肥として使っていますし、一色さんは、牛糞を発酵させたものと、草と米ヌカ、魚粉で作っておられます。大谷さんの堆肥は、草、コーヒークスの発酵肥料、鶏糞、米ヌカ、もみ殻、EM菌、市島堆肥センターの堆肥などです。

その堆肥の重要な部分を占める草について、赤峰勝人さんの本におもしろい説を見つけました。

土は大量のカルシウム (Ca) を必要としており、この Ca を作り出してくれるのが草なのです。まだ、土が痩せている段階では竹が根を張り巡らせて固い土を柔らかくしてくれ、次にはススキが生え、土が豊かになるにつれて、スギナやハコベ、オオイヌノフグリなどに変わっていきますが、どの草も Ca を作り出しています。スギナは体内に 70%もの Ca を蓄えることができるそうです。カバや象、牛や馬などの草食動物は草しか食べないのに立派な骨格をしています。草の中に良質の Ca 分が大量に含まれている証拠です。草に含まれる Ca は酵素体の Ca です。それが原子転換によってケイ酸 Ca の形になり、人体に 100%吸収されています。

作物を収穫した後は草ごとトラクターで土にすき込みます。すき込んで 1 カ月ほどで、土の中の昆虫や微生物が草を土に戻してくれます。ただし、農薬や化学肥料を撒き続けた畑では、何カ月たっても草はそのまま残っています。

地球を包む土の表面 10cm ほどが表土で、その中に昆虫や微生物の 90%以上が生活しています。虫がせっせと草木の死骸を食べて糞を出し、その糞を微生物が食べて完全な土を作ってくれているのです。一坪に 10 kgもの虫や微生物が生活しているのです。彼らが生活するためには彼らの食料である膨大な量の有機物（植物の死骸）が必要です。たくさんの虫と微生物、有機物、彼らが満たされて初めて生きた土と言えるのです。そんな土なら、農薬や化学肥料を一滴も撒かなくても、命をいっぱい含んだ、素晴らしいお米や野菜ができるのです。これを食べて、私たちは元気をもらっています。

土の栄養分をもらって大きくなった野菜や米は、土が変化したものです。野菜が育った分、土が減っているということです。その分、畑に返さなくてはなりません。どうやって返すのか。それが堆肥です。野菜や米は人に食べられ、人に命のエネルギーを与えて、やがて糞に姿を変えます。糞を完全堆肥にして土に返せば、土は痩せることなく、豊かな実りを約束してくれます。

それがどうでしょうか。水洗トイレの発達により、化学肥料と農薬にとって代わられました。土の循環がズタズタになってしまったのです。貴重な下肥は、下水道から河川へ、海へと垂れ流されており、川や海の生態系は大きく壊れてしまっています。下水道終末処理場で薬品によって強引に「衛生的できれいな水」にして河川や海に流しています。「衛生的できれいな水」には命がありません。飲んでも元気をもらえません。自然界にはきれいなだけのものはありません。いろんな要素が混在し、見事に調和しているのが自然です。

*参考文献：赤峰勝人『ニンジンの奇跡 畑で学んだ病気にならない生き方』講談社+α新書

(学習研究部・ジェームス山G 高橋 京子)



秋の地域集会 (各会場への行き方はニュース 926 号 4 面に掲載しています)

地域	日時	会場	連絡先
宝塚	10月25日(火) 10:00~12:00	宝塚教会 会議室 (宝塚市宝梅 1-4-46)	今田
尼崎・西宮 芦屋	10月20日(木) 10:00~12:00	西宮市公民館 401 集会室	池田
東灘・灘 中央区	10月22日(土) 10:00~12:00	神戸学生青年センター 会議室D	飛田
兵庫・長田 北区	10月24日(月) 14:00~16:00	熊野地域福祉センター	明松
須磨・垂水・西区・明 石・加古川・高砂	11月5日(土) 10:00~12:00	アスパシア明石 北館 7F あか し男女共同参画センター 会議室1	村川

お知らせ

- ・前期会計監査 10/17 (月)
- ・一色さん添乗 10/21 (金)
- ・市有研との話し合い 10/23 (日) ライピア市島
- ・今年の黒豆の枝豆はありません。

12月10日みかん収穫体験 参加者募集



「おいしいね！」を作る人に
会いに行きましょう！

新活動「おいしいね！」が育てる元気”
第4回プログラムで、南あわじ市ゆづるは百
姓連の山口さんの温州ミカン農園に行きま
す。ご厚意でミカンの収穫体験をさせて頂け
ることになりました。

参加を希望される方は、10月28日(金)
までにグループ名、名前、携帯番号を書いて、
事務所にファックスでお申込み下さい。


★バス費用 (保険含む) 1,000 円

(キャンセルの場合も基本的には返金し
ません。11月に郵貯の自動引き落とし)

★おれんじ荘食事 1,500 円

(お弁当持参も可)

★斜面を歩きますので歩きやすい靴、服装で

【旅程】 12/10 (土) 8:30 集合 (神戸駅北
湊川神社)  →11:00 ゆづるは(ミ
カン収穫体験) →12:30 おれんじ荘にて食
事とお話→16:30 頃神戸で解散予定

10月19日(水)の全体会のあと、新規就農
の高橋夫妻のお話をお聞きします(13:00
~15:00)。

高橋夫妻は自然農で麦類など作っておられ
ます。大麦、はったい粉、小麦粉、さつま芋
など持ってきて販売していただきます。ぜひ
ご参加ください。

午後からだけの参加もどうぞ。

食料環境セミナー

「限界集落の再生の取り組みにつ いて～宍粟市一宮町千町～」

10月26日(水)10:30~12:00

NPO ひょうご農業クラブ 理事長

増田 大成さん

会 場：神戸学生青年センターホール

参加費：600 円

※託児あり (無料) 前々日までに要予約

主 催：(公財) 神戸学生青年センター

ニュース訂正

ニュース 926 号 (10/1 号) 1 面左

- ・ 地域集会 × 9 月下旬~10 月初旬
→ ○10 月下旬~11 月初旬
 - ・ 収穫感謝祭 喫茶 ×150 食→○80 食
お茶席 × 80 席→○30 席
- お詫びして訂正いたします。